

1	事業名称	信州高遠ボランティア養成研修				
2	新規・継続	継続				11年目
3	趣旨	青少年自然の家の自然環境を活かした様々な体験活動や学習を通して、青少年教育施設における子どもたちの体験活動を支えるボランティアとしての必要な知識・技術について研修する。				
4	期日・期間	回数	開始日	～	終了日	期間
		1回目	5月25日(土)	～	5月26日(日)	1泊2日
		2回目	9月14日(土)	～	9月15日(日)	1泊2日
5	実施場所	国立信州高遠青少年自然の家				
6	募集人数	60人(各回30人)				
7	共催・協力・後援	後援：長野県教育委員会 山梨県教育委員会 愛知県教育委員会				
8	参加者人数	1回目 22人 2回目 32人				
9	参加者類型	1回目 高校生5人 短大生2人 大学生12人 社会人3人 2回目 大学生30人 一般2人				
10	参加者地域	1回目 長野県15人, 山梨県2人, 東京都1人, 新潟県3人, 神奈川県1人 2回目 長野県16人, 新潟県16人				
11	参加者分析	1回目…参加者が22名と昨年度からおおよそ半分の人数となった。昨年度参加者が多かった信州大学と上越教育大学の1年生の参加者が大幅に減ったため、事前の広報の仕方について検討する必要がある。高校生5名(2校)の参加があった。高校の先生からの勧めで参加をしたということで、引き続き高校への広報も続けていく。2回目…1回目の参加者が減少した分、2回目の参加者が増え、年間では昨年並みの参加人数となった。				
12	アンケート満足度	回数	満足	やや満足	やや不満	不満
		1回目	86.0%	9.0%	5.0%	0%
		2回目	77.4%	22.6%	0%	0%
13	アンケートの主な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは学校教育に主に目を向けていましたが、社会教育の重要性を知ることができました。 ・座学ばかりかと思っていたので、活動的な体験が多くて楽しかった。 ・グループでボランティアの意義について話し合う場面では、みんなで話し合うことで自分の中に新しい考えが生まれてとても充実した時間でした。 				
14	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や体験活動を通して、ボランティア活動の意義や、青少年教育施設における活動を支えるボランティアとして必要な知識や技術を伝えることができた。 ・参加者が20名程度だったため、班を超えての関わりが出来た。また、テント泊やグループ活動によってグループ内のメンバーで関わる時間が多かったため、既存の人間関係を超越して参加者同士の結びつきが強くなった。 ・継続ボランティアが「ボランティアの意義」の時間でのプレゼンテーションやアイスブレイク等で事業プログラムに直接参画したことで、継続ボランティアの実践力を高める機会となった。 				
15	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気温が低い時期のため、テント泊の際は体調を崩さないよう道具の用意や装備について事前にしっかり案内する必要がある。 ・大学側との連絡が密にとれない状況だったため、連絡手段を再検討する必要がある。 				
16	担当者メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・テント泊を実施したことで野外で過ごす時間が多くなり、より青少年対象の事業に近い形の体験をすることが出来た。 ・できる限りグループでの活動を行い、またその中で意見交換する場面を増やすことで、年齢を超えて相互に学び合う関係を構築することができた。 				

第1回 プログラム展開		
日程・時間	プログラム	担当（講師等）
5月25日（土）		
10:45～11:00	開講式	
11:00～12:00	実習Ⅰ「青少年教育施設でのボランティア活動の実際と体験」	国立信州高遠青少年自然の家 事業推進係員 法人ボランティア
12:00～14:00	実習Ⅱ「施設内オリエンテーリング」	国立信州高遠青少年自然の家 事業推進係員
14:00～15:00	実習Ⅲ「テント設営」	国立信州高遠青少年自然の家 事業推進係員
15:00～19:30	実習Ⅳ「野外炊飯」	国立信州高遠青少年自然の家 事業推進係員
19:30～21:00	講義Ⅰ「ボランティア活動の意義」	国立信州高遠青少年自然の家 事業推進係員 法人ボランティア
5月26日（日）		
6:00～8:50	実習Ⅴ「青少年教育施設の教育機能の理解」	国立信州高遠青少年自然の家 事業推進係員
9:00～12:00	実習Ⅵ「一般救急講習会」	日本赤十字社長野支部救急救命派遣講師
13:00～14:30	講義Ⅱ「青少年教育の理解」	国立信州高遠青少年自然の家 所長 下村善量
14:30～15:00	実習Ⅶ「ふりかえり」	国立信州高遠青少年自然の家 事業推進係員
15:00～15:20	閉講式	



実習「テント設営」



実習「野外炊飯」



講義「ボランティア活動の意義」



「朝のつどい」



実習「救急法講習会」



講義「青少年教育の理解」

第2回 プログラム展開		
日程・時間	プログラム	担当（講師等）
9月14日（土）		
10:45～11:00	開講式	
11:00～12:20	講義Ⅰ「青少年教育の理解」	国立信州高遠青少年自然の家 所長 下村 善量
13:00～14:30	実習Ⅰ「青少年教育施設でのボランティア活動の実際と体験」アイスブレイク	国立信州高遠青少年自然の家 職員 法人ボランティア
14:30～19:30	実習Ⅱ「自然体験活動」 ①「テント設営」②「野外炊飯」	国立信州高遠青少年自然の家 職員 法人ボランティア
19:30～21:00	講義Ⅱ「ボランティア活動の意義」	国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職
9月15日（日）		
6:00～ 7:40	実習Ⅲ「青少年教育施設の教育機能の理解」	国立信州高遠青少年自然の家 職員 法人ボランティア
9:00～12:00	実習Ⅳ「一般救急講習会」	日本赤十字社長野支部救急救命派遣講師
13:00～14:00	講義Ⅲ「青少年教育施設の現状と運営」	国立信州高遠青少年自然の家 次長 渡邊 孝
14:00～15:00	実習Ⅴ「ふりかえり」	国立信州高遠青少年自然の家 職員 法人ボランティア
15:00～15:20	閉講式	



講義「青少年教育の理解」



実習「青少年教育施設でのボランティア活動の実際と体験」



実習「テント設営」



講義「ボランティア活動の意義」



実習「救急法講習会」



実習「まとめ・ふりかえり」